

Ⅶ 成果と問題点

1 浜厚真3遺跡のTピットについて

これまで述べてきたように、今回の調査では3,390㎡の調査面積から173基のTピットが検出された。本遺跡の所在する勇払平野東部では、これまでに「苫小牧東部工業地帯の遺跡群」（以下、「苫東遺跡群」）等の調査によって、500基を越すTピットが報告されている。ここでは、本遺跡と「苫東遺跡群」のTピットとの相違点について若干の比較を行い、本遺跡の特徴と問題点のいくつかを明確にしておきたい。なお「苫東遺跡群」の位置は、図Ⅱ-4-5に示されている（表Ⅶ-1-1の番号は図Ⅱ-4-5に対応）。

（a）立地

本遺跡は台地から低湿地へ地形が変化する部分に立地している。台地と低湿地の間には標高7～8m（中央部の調査終了面）の平坦部が形成されており、Tピットの大半はこの部分で検出された。

一方の「苫東遺跡群」中の各遺跡は、いずれも厚真台地（40等のある台地）、静川台地（100等のある台地）、柏原台地（16等のある台地）、遠浅台地（81等のある台地）の頂部、標高約10m以上にあり、本遺跡とは対照的な立地である。

（b）分布密度

Tピットの分布密度は、「調査面積（㎡）／Tピット基数」から割り出され（厚真町教委2001）、本遺跡の場合、19.6㎡につき1基となる。

「苫東遺跡群」のうち、最もTピットが検出されている静川14遺跡（40番）では130.1㎡につき1基、次いで多い厚真7遺跡（100番）では90.9㎡につき1基である（表Ⅶ-1-1）。台地ごとにみると、各台地とも約300～400㎡に1基検出される程度で、本遺跡に比べるといずれもTピットの密度は低い。遺跡の範囲のとりえ方で計算上の値は変わるが、本遺跡が高密度にTピットの分布する一帯であることは理解されよう。

本遺跡のTピットを「苫東分類」によって分類したところ、B1型にあてはまるものが最も多く67基、次いでA1型、A2型、C2型、B2型、C1・C型となる（表Ⅳ-2-1）。

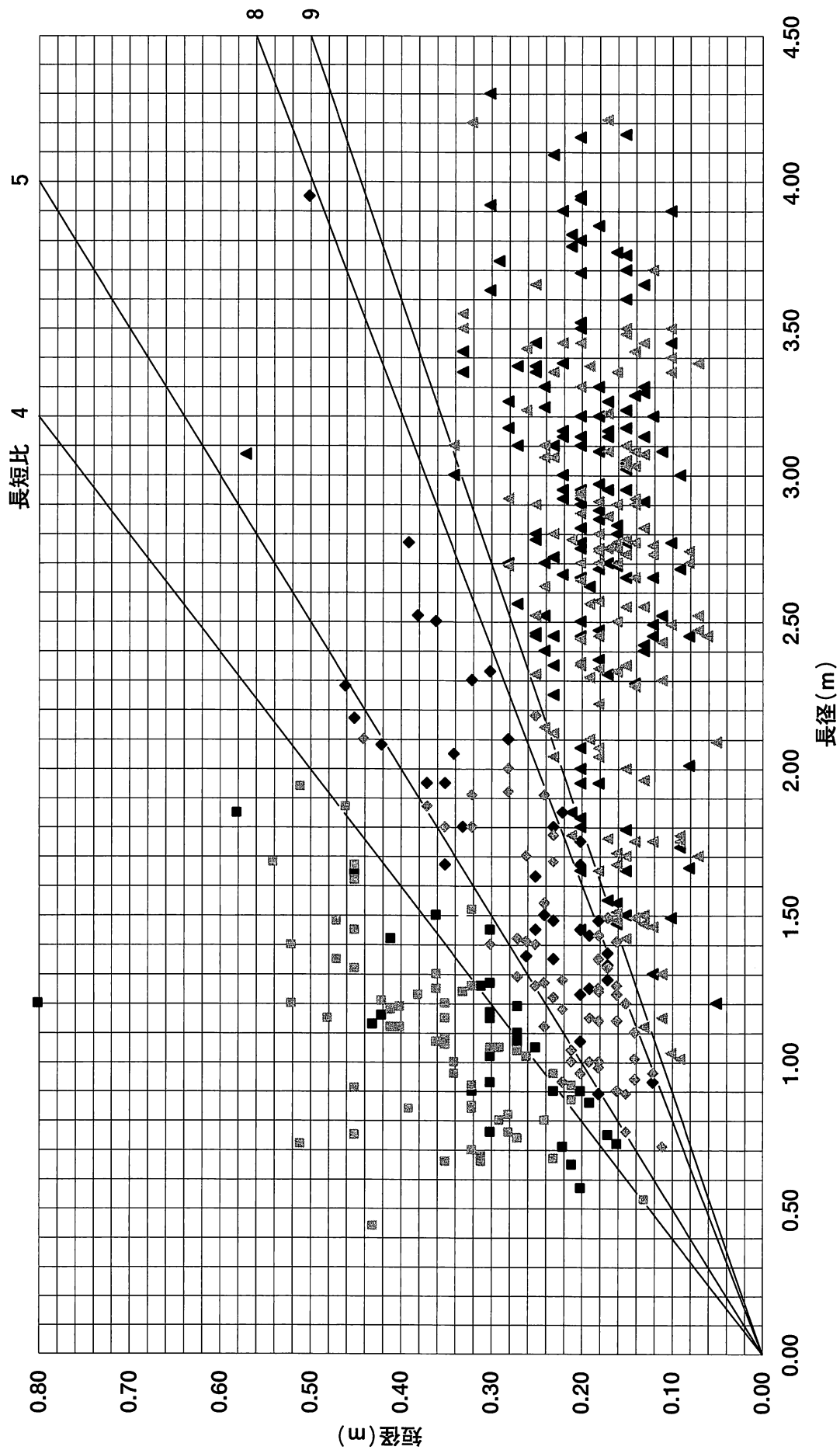
これに対して「苫東遺跡群」全体（534基）では、A1型が248基で半数に近く、以下B1型、C2型、A2型、C1型、B2型の順になる（表Ⅶ-1-1）。ただし、B1型とC2型の差はわずか3基で、台地によっては両者が逆転する場合もあり、これらはほぼ同数とみてよいであろう。

このように「苫東遺跡群」では、A1型のTピットが最も多いが、本遺跡ではB1型が多い。また、「苫東遺跡群」におけるB1型の検出数をみると、調査面積177,830㎡に対して71基にとどまる（約2,500㎡につき1基検出される程度）。これらを合わせて考えると、台地と低湿地の間に平坦部のある本遺跡のような場所に、台地頂部よりもB1型の多い可能性がある。

（c）形態

図Ⅶ-1-1は厚真台地と静川台地のTピット約500基について、底面の長径と短径の相関をあらわしたものである。本遺跡での相関図（図Ⅳ-2-4）と比べると、両者ともおおむね同様の分布を示しており、とくに異なるまとまりはみあたらない。

各分類についてみると、A1型は、両者とも2.5～3.5m付近にまとまりがみられる。本遺跡のA1型は2.4～4.0mのまとまりがあったため、あえてA1-L型として区別したが、厚真・静川台地のものをあわせてみると、2.4mとした境界は曖昧になり、2mを境としてA1型とA2型に分けることで充分であったかと思われる。2m以下のA型（A2型）については、本遺跡の場合、B型との境界



図Ⅶ-1-1 Tピット底面における長径・短径の相関図 (厚真・静川台地)
 △A型 ◇B型 □C型 (黒塗りは厚真、薄網は静川台地)

が不明瞭であり（図Ⅳ－2－4）、配列を想定する際には、A 2 型、B 1 型をあわせて検討した方がよいと考えられる。

B 型は、本遺跡では約 1～2 m に集中しているが、厚真・静川台地では約 1～1.5 m 程度のものが多い。C 型でとくに目立つ点はない。

以上、(a)～(c) の 3 点について、本遺跡のいくつかの特徴を明確にしたつもりである。続いて、本遺跡の T ピットの問題点について若干ふれておきたい。

Ⅳ章でも述べたが、T P－74 の覆土 1・2 層は隣接する T P－73 の掘り上げ土と推測される。一方、覆土 3～10 層は晩秋から春先にかけて、土壌中の水分が凍結・融解を繰り返したことにより、壁面等が崩落して堆積したものとみられる（本頁 25～33 行参照）。このことから、使用されなくなった 74 がくぼみとして確認できる時点で 73 は構築され、その掘り上げ土で 74 のくぼみを埋めたと推測される。さらに、73・74 とともに A 1－L 型で、規模・長軸方向についても概ね同じであることを考慮すると、74 が使用されなくなってから 1 年ほどの間に、その代わりとして 73 は構築されたのではないかと考えられる。

さて本遺跡の T ピットの中には、重複するものや、隣接する T ピットの掘り上げ土によって埋められたもの（以下、埋め戻しと略）があることから、全てが同時に構築されたわけではない。ここで本遺跡における重複と埋め戻しの差を整理すると、①同分類・同規模のものは重複しないが、長軸方向をほぼ同じくして隣接する場合、埋め戻される例がある（T P－73 と 74 等）、②異なる分類どうしでは重複する例があるが（T P－56 と 78 等）、隣接するものに埋め戻しは確認されていない。

①と②、さらに T ピット覆土の堆積を合わせて考えると、同分類で規模・長軸方向も概ね同じ T ピットどうしの隣接は、T ピットが埋まりきっていないため重複しないとみられ、構築の時間差が短い可能性がある。異なる分類の T ピットどうしの重複は、T ピットがほぼ埋まりきっているため重複するとみられ、構築の時間差が長い可能性がある。以上のことから推し量ると、本遺跡での T P－73 と 74（ともに A 1－L 型）の隣接等は同分類のものがほぼ同時期（時間差が短い）に構築されたことを、T P－56（A 1－L 型）と 78（B 1 型）の重複等は異なる分類のものが時期も異にして（時間差が長い）構築されたことをうかがわせる。

ここで本遺跡の T ピットを冬季に観察する機会があったので、簡単に紹介しておきたい。

2002 年 10 月 25 日：現場調査の最終日。初霜が降りる。

2002 年 11 月初旬（曇り、正午頃）：T P－9 に枯葉がかなりたまっている。

2002 年 12 月 1 日（晴れ、午前 10 時半頃）：調査終了面は霜柱が立ちブカブカである。観察された全ての T ピットは、壁面から崩落したⅦにより半分近くまで埋没している。埋まりきっていない壁面にはⅦの付着した霜柱がびっしりと立ち、小さな崩落を起こし続けている。まだ積雪はない。

2003 年 1 月 26 日（晴れ、正午頃）：積雪 20 cm 程度。T P－99 は調査終了面から約 45 cm 下まで埋まっている。地表はピンポールが刺さらないほど凍てついて固い。T P－145 の開口部は長径が 40 cm 程広がっていた。積雪により多くの T ピットの位置は不明である。

花粉分析・植物珪酸体分析の結果によれば（Ⅵ章 2 参照）、T ピットが構築された頃の本遺跡は、キク亜科やイネ科などの生育する開けた草地であったと推測されている。また、ヨシ属等も検出されていることから、近くに湿潤な場所があったとみられており、本遺跡の低湿地部分が該当するのであろう。すでに述べたが、浜厚真 3 遺跡は台地から低湿地へと変化する地形の境界部分に立地している。T ピットの構築にあたってこのような立地条件がいかに好適であったかは、173 基にのぼる T ピットの数によって示唆されている。

（山中）

表Ⅶ-1-1 「苫小牧東部工業地帯の遺跡群」 Tピット一覧

台地	番号	遺跡名	面積 (㎡)	基数	1基/㎡	A1	A2	B1	B2	C1	C2	C	D	不明	合計	報告書
厚真	42	静川	18,234	41	1/444.7	17	5	6	1		12				41	Ⅷ
	40	静川14	15,608	120	1/130.1	41	13	23	8	12	23				120	Ⅵ
	41	静川15	2,187	1	1/2187.0	1									1	Ⅵ
	44	静川18	2,974	2	1/1487.0	2									2	Ⅶ
	45	静川19	2,974	11	1/270.4	5		1	4		1				11	Ⅴ
	46	静川20	2,687	17	1/158.1	9	1	1	2		4				17	Ⅳ
	47	静川21	2,544	4	1/636.0	1		3							4	Ⅳ
	48	静川22	13,064	21	1/622.1	11	4	2		1	2		1		21	Ⅸ
	49	静川23	2,770	1	1/2770.0						1				1	Ⅶ
	50	静川24	2,562	2	1/1281.0	2									2	Ⅶ
	51	静川25	8,174	13	1/628.8	12			1						13	Ⅶ
厚真台地合計			73,778	233	1/316.6	101	23	36	16	13	43		1		233	
静川	95	厚真1	5,208	12	1/434.0	5		2	1	4					12	Ⅰ
	96	厚真2	3,241	8	1/405.1	3	1	3			1				8	Ⅰ
	97	厚真3	6,366	31	1/205.4	21		2	3	4	1				31	Ⅲ
	100	厚真7	7,185	79	1/90.9	27	10	10		10	1		21		79	Ⅱ
	101	厚真8	6,829	9	1/758.8	5								4	9	Ⅰ
	103	厚真10	2,707	3	1/902.3			1	1	1					3	Ⅰ
	105	厚真12	1,812	2	1/906.0	1		1							2	Ⅲ
	106	厚真13	3,200	9	1/355.6	7	1				1				9	Ⅳ
	107	共和1	5,711	7	1/815.9	3	1			1	2				7	Ⅱ
	30	静川4	2,300	17	1/135.3	12		2	1	2					17	Ⅹ
	34	静川8	15,660	50	1/313.2	25	1	6	3		2		13		50	Ⅲ
	74	静川29	1,938	3	1/646.0	1						1	1		3	Ⅶ
	75	静川30	9,375	17	1/551.5	12		4			1				17	Ⅶ
	76	静川31	1,094	2	1/547.0	1					1				2	Ⅶ
	78	静川33	3,375	2	1/1687.5	1		1							2	Ⅶ
	79	静川34	4,713	6	1/785.5	6									6	Ⅶ
	80	静川35	3,281	1	1/3281.0	1									1	Ⅶ
静川台地合計			83,995	258	1/325.6	131	14	32	9	22	10	1	35	4	258	
柏原	15	柏原16	3,778	16	1/236.1	9		2	2		3				16	Ⅳ
	16	柏原17	5,007	4	1/1251.7	1					3				4	Ⅷ
	17	柏原18	4,904	15	1/326.9	1		1	2		9		2		15	Ⅴ
	18	柏原19	2,125	6	1/354.2	4	2								6	Ⅳ
柏原台地合計			15,814	41	1/385.7	15	2	3	4		15		2		41	
遠浅	81	遠浅1	4,243	2	1/2121.5	1								1		Ⅱ
合計			177,830	534	1/333.0	248	39	71	29	35	68	1	38	5	534	

Tピットの報告されていない遺跡は含めていない
番号は図Ⅱ-4-5に対応 報告書は「苫小牧東部工業地帯の遺跡群」の報告書シリーズ名